



日本赤十字社の災害救護活動は皆様のご寄付によって支えられています。活動資金にご協力ください。

令和2年7月豪雨災害 救護活動報告

避難所で被災者を診察する日赤救護班

7月4日頃から降り続く豪雨により、九州を中心とした西日本において、広範囲に渡って甚大な被害が発生しました。

日本赤十字社では、各被災地の行政と連携しながら、新型コロナウイルス対策に留意しつつ、被災地域に救護班等の医療チームを派遣して被災者の健康を支えるとともに、救援物資の配付等も行っております。埼玉県支部からも、さいたま赤十字病院の医師を内閣府調査チームの一員として派遣しました。

この災害救護活動や救援物資等は、皆様からお寄せいただく活動資金によって成り立っています。

被害状況（消防庁調べ）

人的被害	死者	78名
	心肺停止	0名
	行方不明	6名
	重症	5名
	軽傷	18名
住家被害	全壊	587棟
	半壊	164棟
	一部損壊	352棟
	床上浸水	7,875棟
	床下浸水	7,198棟

7月21日 7:00時点

日本赤十字社の対応



避難した方の健康状態を確認する日赤救護班（熊本県）



避難所の状況を聞き取り、今後の対策に必要な情報収集をする日赤救護班



避難所用の救援物資の搬送をする赤十字ボランティア（熊本県）

避難所などで配付した救援物資（7月21日現在）

毛布、タオルケット等



計7,415枚



緊急セット等(懐中電灯、ラジオなど)



837
セット

安眠セット(枕、マットなど)



965
セット

いただいたご寄付の活用例

災害時の経費・購入費の例

救援物資の備蓄と配分

救援物資を平時から購入・備蓄し、災害時に被災者へお配りしています。



毛布
約2,000円



安眠セット
約3,000円



緊急セット / 1セット4人分
約6,000円



※金額は日本赤十字社が備蓄のために購入する際の単価です。一般に販売はしていません。

災害に備え、市区町村へ災害救護資機材を配備

地域の防災力の向上を目的として、天幕や簡易トイレ、炊き出し用の釜など、各市区町村の要望に応じて、災害時に役立つ資機材を計画的に配備しています。



約230,000円



約200,000円



約250,000円



平時の防災活動などの例

災害に備えて
様々な赤十字活動
に活用させて
いただきます



救急法等普及

いざというときの応急手当や救命講習、AEDの使い方を学ぶ講習会を開催



防災セミナー

自助・共助について考える
セミナーを開催



ボランティアの育成

災害時に活動できるボランティアを育成



「災害義援金」は別途受け付けております。

詳しくは日本赤十字社のホームページをご覧ください。